

会議記録簿（HP 掲載用）

件 名	第2回（仮称）魚津市観光地域づくり法人（DMO）設立準備会		
日 時	令和6年2月29日（木）16:00～17:30	場 所	魚津商工会議所 5階 研修室
出席者	会議次第等参照		
事務局	市：四十万副市長 赤坂産業建設部長、政二商工観光課長、 高嶋商工観光課観光戦略係長、井森主事 観光協会（商工会議所）：大崎専務理事、宮坂事務局長、高野課長		

内 容	<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地域づくり法人（DMO）設立に向けて、これまでの検討内容の共有と今後の検討事項について説明し、意見交換を行うもの。 <p>【四十万副市長：挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚津市においては、令和4年3月に策定した「第3次魚津市観光振興計画」に基づき、魚津市が一体となった強力かつ持続可能な観光推進体制の構築に取り組むこととしており、魚津市の観光振興の舵取り役を担う組織として、魚津市観光地域づくり法人（DMO）の設立に向けた検討を行ってきたところ。 ・前回第1回設立準備会では、観光地域づくり法人（DMO）設立の趣旨や役割分担、設立に向けたスケジュールなどについて意見交換したが、今回第2回では、スケジュールの見直しや組織体制、役員体制、事業内容等について意見交換をさせていただきたい。 <p>【報告事項】</p> <p>次第に従い事務局より説明</p> <p>（1）第1回設立準備会の振り返り…資料①</p> <p>【質疑応答・意見交換】</p> <p>委 員：DMO 自体は10年ほど前から聞いており、設立は賛成。しかし組織体制について、各産業団体の長が中心となっているこの準備会がそのまま理事会に移行すると、一民間企業の立場からすると、利益誘導的な捉え方をされないかという懸念はある。</p> <p>⇒事務局：組織の在り方については、この後お示しする予定だが、単なる民間企業としてではなく、観光の拠点となりうる皆さまに参画いただいていると認識している。引き続きご意見いただきたい。</p> <p>委 員：必要性はよくわかる。組織づくりは、極論だが、登記さえすればできてしまう。全国の事例で見られている課題について、「魚津市ではどう解決しながら進めていくか」といことを一緒に議論していくべきだと考える。</p>
--------	---

内容

委員：・本当の意味での官民連携が必要。オープンな組織体制、事業者との意見交換、コミュニケーションが非常に重要であり、全国事例を見てもそのような地域に良いアイデア・取組が生まれている印象。魚津市のDMO設立についての取組は期待している。

・おいしい食べ物や伝統的なお祭りもあり、ポテンシャルは高いと思っている。

委員：・魚津市に限らない話だが、兼ねてより地域の観光資源が面的に結び付けばよいのではと考えていたが、なかなか単独の事業者では難しかった。

・より専門的に取り組むスタッフを備えた観光協会が必要だと考えていた。
・並行して検討されている「まちづくり会社」と一緒にすれば良いとの意見もあるが、多少毛色も違うため、やはり観光に特化した組織は必要。最終的には人の問題。

委員：・「DMOを作りさえすれば観光地域づくりがうまくいく」という発想であれば全国どこも観光都市になっているはず。誰がトップになり、誰が組織を動かしていくか。最終的には人の問題となる点は同意見。

・設立した後に「誰に担ってもらおうか」という議論をしてもうまくいかない。箱づくりと人づくりは同時並行で進めていくべき。

⇒事務局：・過去の事例を見ても、人が変われば良い取組みも終わってしまう。継続性をとらえて進めていくスタッフが相応しいが、やはり行政では異動がついて回る専門性・継続性に欠けてしまう。

・立上げ当初の職員は市からの出向などに頼ることになるとは思うが、継続的に携わっていただける常勤職員がいずれ必要と考えている。

委員：・少し視点を変えると、ここにいらっしゃる皆さんも含め、どれだけ腹をくくれるか、どれだけ結果に責任感を持てるかが重要という気がしている。

・「誰か優秀な人材を迎え入れて後はよろしく」という話ではなく、設立準備会である我々も監督、協力しなければならない部分もあるし、ときには喧々諤々でアイデアを出さなければならない。そのような一丸となった理事体制、組織体制であるべき。

・口を出すということは、同時に責任もついて回るということ。

委員：・観光客と接する中では、やはり水族館、埋没林博物館を推奨する機会が多いが、先ほどお話もあつたとおり、水循環や歴史文化など、ポテンシャルがあるとと思っている。

・それらを活用したオプションルツアーのようなものを提案ができないかと考えたこともあつたが、そのような取組を実現するためには、DMOのような組織を中心に宿泊施設や交通などが連携した体制が必要と考える。

委員：・地元の人が気づいていない魅力的な資源は山ほどあるのだと思っている。例えばインバウンドにおいては、田んぼのあぜ道を散歩するだけでも観光体験になりうる。

・そういったものを発掘し、編集し、着地型観光として商品づくりを行っていくといった仕事をやるのが、地域に根差した観光団体の役割と考える。

- 委員：・魚津の海沿いについて、官民間問わず観光施設が点在しているものの、連携が希薄なのが現状。これを何とか面的に繋げていければ大きな魅力になるのではと思っはいるが、相談する相手がいない。そういった場面でDMOのような旗振り役の組織がいてくれればと思う。
- ・先ほどから人選の問題が議論の中心となっていたが、たとえ優秀な人材を地域外から引っ張ってきたとしても、すぐに地域をまとめ上げることは難しいと思う。
 - ・代表者を選任して終わりではなく、自らも代表となったような気持ちで関わり合えるような意思決定体制が望ましい。

【協議事項】

次第に従い事務局より説明

- (1) 設立に向けたスケジュール（見直し案）…資料②
- (2) 組織体制（案）、役員体制（案）、事業計画（案）…資料③

※スケジュール（見直し案）については、令和6年10月設立を目途として提示したが、会議前半の議論を踏まえ、期日にとらわれず人選と並行して進めていく点を補足。

【その他】

次第に従い事務局より説明

（参考資料）全国の観光地域づくり法人（DMO）の現状・課題…資料④

- 事務局：・様々検討を重ね、外形的には考え方、体制が積みあがってきたところであるが、ご議論いただいたように、やはり「人」が重要であり、積み上げてきた外形にどう魂を入れるかが重要。
- ・本件について、設立準備会の皆さまにはご理解いただけていることと思うが、その他の幅広い関係事業者の方々の機運がまだ不十分であり、これらの方々にもしっかりと説明をしていきたいと思っている。
 - ・議会にも説明はしているが、同時期に設立を検討している「DMO」と「まちづくり会社」について、「人材、財源の取り合いになるのでは」といったご意見をいただいている。
 - ・全国事例を見ても、これらが両立している地域、1つの法人の異なる部門となっている地域など様々な形がある。この点についても引き続き検討を深めていきたい。

【閉会】